

にいがた

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2015.3.10 NO.23

ろうしきょううNEWS

■特集・災害発生を想定した図上訓練

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！すまいる介護ウーマン



1

デイサービスの利用者は女性が多い。地域に密着していて顔見知りも多いせいか、のんびりなごやかな雰囲気。家庭にいるようなくつろぎが感じられる。



2

馬下温泉という、立派な温泉施設が館内に。隣接して日帰り温泉も。本格的な温泉浴が楽しめる。

■先輩の一言

新人の頃、失敗して

くよくよすることがよくありました。そんな時、先輩から「あなたなら大丈夫。でも、全部うまくいくわけではない。そんな時は周りに頼りなさい」と。救われました。

■今後の自分 子供を産んで、意識が変わりましたね。自分が子供だったら、「こういう親だったらいい」「こういう仕事をしてほしいな」と思ってもらえるよう、楽しく生き生きと。仕事でも家庭でも、娘に憧れてもらえるお母さんになりたいですね。

ご家族も含めて
相手の思いを知ることが
一番難しいですね。

うまく行くことが当然だと
思わない。頼るのも大事。

すまいるウーマン 安達沙緒理さん

○所属 菅名の里デイサービス

○経歴 1989年3月生まれ 五泉市村松出身。国際福祉医療カレッジ(現・国際こども・福祉カレッジ)卒業後、現在勤務する中東福祉会に。介護福祉士、社会福祉主事。



3

午後のお茶の時間。スタッフは20代中心と若いのが特徴。元気をもらって若返りの効果もあるのかな?利用者の笑い声が響く。



菅名の里・まおろしの郷

○運営 社会福祉法人 中東福祉会

○特別養護老人ホーム 定員108人

ショートステイ 定員34人

デイサービス 定員34人

○新潟県新潟県五泉市馬下1429

TEL0250-47-1080

■就職の理由 子供の頃、実家の祖父母が脳梗塞で入院したんです。祖母は比較的軽くて家に戻り、祖父はそのまま入院生活。周囲が介護をする様子を見ていて、私も「こういう仕事に就きたいな」と思いました。祖父は昨年亡くなられたのですが、就職して初めて介護の大変さがわかつ、「ずいぶんお世話になつたんだなあ」と実感しました。

■仕事のポイント やはりコミュニケーション。相手を知るという気持ちを大切にしています。こちらの施設には昨年異動で来たのですが、最初に勤務したデイサービスでは不安ばかり。壁というのかな。コミュニケーションが取れなくて。次第に顔や態度を見て話題を見つけられるようになつたら、子供みたいに可愛がつて頂けました。「お前がいるから来てよかった」。自信につながりました。

娘が憧れてくれるような存在に。

セミナー紹介

介護力向上講習会

介護力向上講習会は、今年初めて新潟分校として開講いたしました。26年4月から、国際医療福祉大学大学院の竹内教授、(株)サンケイビルウェルケアの根岸課長のお二人から、厳しい講義とボリュームのある宿題を渡されて、偶数月の日程とはいうものの大変厳しい1年間でした。ここでも21世紀委員が活躍します。講習会がスムーズに進むように、総合司会、スケジュール確認等大きな推進力になっていただきました。

最終回は、先駆的な施設で有名な東京都世田谷区の「きたざわ苑」から施設長にお出でいただき、様々な角度から助言を頂きました。



竹内教授の張りのある声が室内に響きます。要介護5の利用者を歩行可能にする、歩くことを忘れているだけだという考え方には、評論家 田原総一郎氏との対談でもしっかりと語られています。



最終回の講義は、専門誌では良く取り上げられる、世田谷区「きたざわ苑」の岩上施設長(正面右側)にお出でいただきました。勿論「おむつ0」を達成した施設として、竹内教授のリストにも掲載されています。利用者の立場に立つ援助感、生活環境の整備(利用者・職員)と、目標はシンプルでいて、本質を突いています。



講義が終わっても、質問者が根岸先生を囲みます。

受講生の感想



特別養護老人ホーム
分水の里
介護リーダー

片山 賢一

私は、講習会に参加して今までの考えを覆されました。車イスで過ごされている方は立ち上がりが出来ても歩行は出来ないし、転倒のリスクもあり、また何日か排便がなければ看護職に報告して下剤を追加してもらう等、そうする事が当たり前のように介護を行っていたことに気付かされました。講習会参加後は「トイレに座ってみよう」「少し歩いてみよう」から「出来た」に変わる姿を見て、今まで何の違和感も抱かず介護を行ってきたことを反省しました。この講習会に参加してから何らかの病気で出来ないと思われていたことが、少しづつではありますが取り戻してこられた入居者様の笑顔を見てとても嬉しく思います。今後も一緒に働く職員同士、協力合い取り組みを継続ていきたいと思います。

特養においておむつゼロ?科学的介護?言葉だけが先行して想像すらできない、それを成し得ることができたなら特養の存在すら変化するだろうと、疑いつぱいのままで講習会への参加が始まりました。Aさんは下剤が入ると苦しさと気持ち悪さでベッドから降りてしまっている。Bさんはこのままいくと寝つき全介助になってしまふ。弱っていくご利用者に対して、加齢や病気を理由に成す術なくどうすることもできていないことが痛いほど理解できました。

知識と方法がわかれば後はチーム力。毎日の取り組みの継続で、少しづつご利用者が変わっていくお姿、出来るかも成功するかも…という手ごたえと結果は私たち職員を大きく成長させてくれました。そして何より、ご利用者から元気をもらい、ご利用者のみならずご家族との信頼関係も良好にしてくれていることも大きな成果でした。

おむつゼロとは程遠い成績不良でかつ苦しい研修ではありましたが、ご利用者に還元できる学びの機会を与えていただきましたことに感謝し、今後も継続していく所存です。

特別養護老人ホーム桐原の郷
介護主任兼介護支援専門員
高野ひとみ

終了後のアンケートでも、

- 特に歩行の取り組みでは、職員の関わり次第で利用者がいろいろな可能性を持っている事を感じることができた。
- このままではいけない、何とかしなくてはと言う機運の高まりを感じた。
- 現場で実践する事や周知徹底の組織作りが難しい。

というご意見を頂きました。2年で1クールのこの講習会は、27年度は「認知症ケア理論」「認知症ケア事例」「おむつ0のまとめ」「常食化」等について勉強いたします。27年度から参加される場合は、28年度は「自立支援」「水分ケア」となります。27年度は4月10日(金)開講です。

介護支援専門員実務従事者基礎研修

介護支援専門員として活動を開始して1年未満の方が最初に受講する研修がこの基礎研修です。（但し任意）今年度も新潟県内4会場で、10月から11月の中の5日間が研修日程となりました。地域包括ケアシステムの確立のためには、様々なサービス間や関係職種との調整が必要になってくると同時に、専門員の独立性、中立性を保つことも大切なことだと言われています。そのため研修体系の見直しが進められており、28年度からは新しい体系に整備される予定です。



私が今回の研修に参加し、改めて痛感したことは“しっかりインテーク”“きちんとアセスメント”することの大切さでした。資格を取得してから数年経っていた昨年4月、小規模多機能事業所で初めての介護支援専門員業務に就いた私は、日々の業務に追われながら“これでいいのか”との不安な思いが常にありました。そのような中で基礎研修を受講し、日々やってきたこととじっくり向き合い、基本を再確認させて頂けたことは、その後の業務にとても大きな意味がありました。

これからも研修で学んだことを活かして、利用者様のよりよい支援につなげていきたいと思います。

小林佳代子



在宅介護支援センター
ささら苑

星野 貴博

今回、ファシリテーターとして参加することにより自分自身を振り返る機会が持て、介護支援専門員としての業務や役割は何なのかを再確認することができました。

ファシリテーターとして受講生が発言しやすい雰囲気づくりを一番に考えました。それぞれの意見を引き出し、まとめていくことで、受講生一人ひとりが介護支援専門員として悩んでいた事や引っかかっていた原因に気づき、その解決策がこの研修で導き出された時の晴々した表情は忘れられないものになりました。そして、受講生の成長していく姿を身近でみて、私自身も次のステップへ成長していかなければと、とても刺激を受けた3日間でした。

ありがとうございました。

多職種連携研修

今年度の多職種連携研修は、認知症編、機能訓練編、看取り実践編を実施いたしました。機能訓練編及び看取り実践編は、上・中・下越で開催し、看取り実践編については、昨年の概論編を経て事例発表を交えた実践編となりました。

参加者も介護職員に限らず、様々な職種の会員に参加していただき、正に多職種の中での自らの役割を認識すると共に、いかに連携して業務を推進するかを考える良い機会になってのではなかと思います。



認知症については現在も様々な研修が行われていますが、介護分野においても医学的見地に基づいた視点が求められていることから、ここでもう一度発症原因別に解析し、その症状に適合した介護技術を再確認することを目的として実施しました。

【三島病院精神科部長 田中 晋氏】



機能訓練は、基本的にはディサービスの会員を中心に行なわれます。昨年は大田仁史先生から基本的な考え方を学びましたので、今年は更に実務面での深堀をすることで実施いたしました。ケアプラン全体の中で、機能訓練を行う場として自分たちの役割を考えているディサービスが求められています。

【ゆきよしクリニック 三村 健氏】



看取りも昨年は研究大会での石飛先生のご講演が始まり、死生観の醸成としてルートル学院の福山先生から学びました。今年は上・中・下越で事例発表に基づく実践編を実施いたしました。お忙しい中、事例発表をしてくださいました会員各位に改めて感謝を申し上げます。

【さわたりの郷医務課長 村川 英伸氏】

災害発生を想定した

特集



図上訓練

災害対策研修会

災害は忘れた頃にやってくる、といいます。本会でも、予期できない自然災害である地震についてはNo.18号で「すぐ役立つ防災備蓄品特集」を掲載し日頃から準備できることについて紹介しております。今回は初めての試みとして、次のような状況を想定した図上訓練を実施しましたのでご紹介いたします。今年は、古くは新潟地震、最近では阪神淡路大震災や中越地震から数えると、正に節目の年であり、各事業所の防災担当者を中心に、月刊者施協（鳥野先生の「教えて!!介護保険」）でおなじみの鳥野猛先生から3時間に亘ってご指導を頂きました。会員施設でも是非実施してみて下さい。また、先行している会員施設もあると思いますので、ご意見を頂ければ有難いです。

想 定

平日の午後11時、大雨特別警報が発令された直後、震度6強の直下型地震が襲いました。

<設問>

1. 自施設では、どのようなリスクが想定されますか…？(大雨と地震が重なると)
2. 自施設での「対策・対応」、「連絡・指示」、「課題」について



インフルエンザによる欠席者も多かったものの、110人を超す参加者で、ユニゾンプラザの大研修室が満員になりました。



鳥野先生は福祉リスクマネジメントの専門家で、NHKTVのクローズアップ現代にも出演された経験をお持ちです。先生のトレードマークである「腕まくり」と「関西弁」を交えた歯切れの良さで、参加者を圧倒されました。

会場の中を巡回され、熱血指導で参加者に 「季節は真冬、時間は真夜中、 さーどーする。」

震度4以上は幹部が集まる!!
施設で必要な人は、自宅でも
必要なんだよ。
ほんとに来れるんかいな?

一斉メール!!
電気×で誰がどうやって
するねん?

近くの企業との協力関係!!
こんな時間に営業して
いるの?

集まった人の中で
誰が判断するの?



メール、PC、プリンターすべて×、書くしかない。ホワイトボードが必要、場合によってはすべての壁がホワイトボードになる、見やすく整理して簡潔に書く能力が求められる。

先生の総括

全体的に何が課題として残っているのか、課題解決のためのボトルネックは何か、この思考の積み上げが、いざという時に機能する。そんなことに気づいてもらえば今回実施した意味がある。



今回は会場がユニゾンプラザでしたので、第2ブロックの21世紀委員に企画・運営をほぼ全面的に委ねました。

21世紀委員は、組織改正後の2年間を活動の準備期間とし、各種研修会、講習会への参加、カントリーミーティングへの参加等で経験を重ね、27年度から独自の活動を開始いたします。



●施設長リレーコラム●

地域とご家族に 支えられて

特別養護老人ホームみしま園 園長
小黒美智子さん

特別養護老人ホームみしま園は、旧三島・古志郡の8市町村からの支援をいただき、旧三島町地区に県内で18番目となる特養として昭和57年4月1日に開設し、今年で34年目を迎える長い歴史のある施設です。

この間、措置から契約に変わり、施設を取り巻く状況や環境も大きく変化していますが今現在もずっと変わらず、地元の各団体・個人・学校関係のボランティアの皆様、ご利用者ご家族のご協力・ご支援に支えていただき「みしま園の建物は古くなつたけれど温かくていいね」と声をかけていただき、引き継がれている関わりに感謝しております。

その基礎となっているのは、開園から1年を経過した昭和58年4月1日に、園の運営状況・方針の理解を目的として家族協力会(現在は家族会)後に家族協力会OB会も結成されたことが大きかったと考えます。



納涼盆踊り大会・踊りの輪



家族会年末大清掃

現在でも年間行事では、納涼盆踊り大会をはじめ、新年祝賀会、餅つき大会、年末の大掃除など、多くのご家族から参加やご協力いただき、「風通しの良い開かれた施設運営」に大きく貢献していただいております。

また、職員も「温かなきめ細かいケアの提供を目指す」という方針の基に、30余年に培ってきたものを大切にしながら、一人ひとりの職員が声に出し、共に考え、共に学びながら現場発信できる介護力を磨いています。今もご利用者の生活環境の見直として「その方に合った車いすやベッド環境、根拠に基づいたケアの提供と実践・評価」と介護の原点に取り進めています。

27年度の介護保険制度改革、介護報酬改定と施設を取り巻く環境が厳しくなりますが、今の時代だからこそ、基本的なケアの実践と職員の変わらぬ温かさが求められていると思います。「ご利用者の笑顔のために…」



みしま園 春風景



みし丸太くんと夏の思い出

事業所所在地	新潟県長岡市宮沢580番地3
運営事業者	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会
事業所の種類	特別養護老人ホーム
連絡先等	TEL 0258-42-3131 FAX 0258-42-2721

編集後記

今回は、図上訓練を特集してみました。災害は忘れた頃にやってくる!とはよく言われます。ご利用者の安全は素より、自分の身も当然に守らなければならない私たちにとって、常に「こんな時どうする」という仮説を立ててその解を準備しておかなければなりません。日頃の業務

に追われている中でも、非常時の事を常に意識し、周到な準備でご利用者様の安全を確保するという重要な任務を任せられていますので、その仕事に勇気と誇りをもって立ち向かっていかなければなりません。それが結果として強固な法人組織を作り、その地位を確立するとともに、いろいろな意味

で私たちの身をも守ることになるのではないでしょうか。阪神淡路大震災から20年、このニュースが発刊される頃には東日本大震災から4年が経過します。今一度我々の周囲を見渡し、課題を整理してしっかりした解を固めておきましょう。

